

週 報

国際ロータリー第 2660 地区

令和 7 年 5 月 13 日



豊中ロータリークラブ

第 3042 例会

第 2636 号

広めよう ロータリーの心 地域とともに

創立 1959 年 6 月 16 日

2024~25 年度
国際ロータリー会長
ステファニー・アーチック
(マクマーリー・ロータリークラブ)

Rotary
Toyonaka



2024.7~2025.6
会 長 眞下 節
副 会 長 村司辰朗
幹 事 米田 眞
雑誌・広報・会報委員長
小寺潤一

本日（5 月 13 日）のプログラム

「国際奉仕月間に因んで」

国際奉仕委員長 藤田 充男



次回（5 月 27 日）のプログラム

「青少年奉仕月間に因んで」

青少年奉仕委員長 船橋 輝夫

会長の時間

「瞳孔は脳の窓」

2024-25 年度 会長 眞下 節

医師にとって瞳孔の大きさは脳の病気のサインとして重要と習いました。瞳孔は脳出血や脳梗塞、脳ヘルニアなどの脳の病気で変化します。例えば、脳出血では瞳孔は縮瞳して非常に小さくなります。また、脳ヘルニアではヘルニアが起きた方の眼では瞳孔が散大し、強い光を当てても縮瞳が認められなくなります。

一方では、昔から「目は心の窓」とされていて、目をのぞき込むとその人の心の働きが見えるとよく言われます。これまでに、瞳孔と脳深部での情報処理との関連が研究され、瞳孔の大きさが注意力、覚醒や怒りによって変化することが明らかにされてきました。最近、瞳孔サイズと情報記憶処理を司るワーキングメモリーに相関性があることが Attention, Perception & Psychophysics に報告され、瞳孔が知能にも関連していることが示されました。瞳孔の散大が大きい被験者ほどワーキングメモリーの評価成績が高く、瞳孔サイズとワーキングメモリーには相関性があるということです。共同研究者のテキサス大学のガーナー博士は、「ヒトが作業に集中するときや認知力を要する仕事をするときには覚醒を制御する脳領域が活性化し、これが瞳孔の散大につながっている」と述べています。さらに、他の共同研究者のトリアス博士は、「個人の認知機構と瞳孔サイズの関連を追跡する手法は今後極めて有用な解析法になる可能性があり、脳の状態を非侵襲的に調べることができるようになる」と述べています。ちょっと怖いことですが、ヒトの目をのぞき込むとその人の知能指数が見えてしまうということのようです。

四つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

事務局・例会場：〒560-0021 豊中市本町 3 丁目 1 番 16 号 ホテル アイボリー内
TEL 06-6858-1551 FAX 06-6857-0011

例 会 日 時：毎週火曜日 12 時 30 分より
事 務 局：9 時～15 時（土日祝を除く）

H P ア ド レ ス： <https://toyonaka-rc.jp>

メー ル ア ド レ ス： jtrc2660@sun-inet.or.jp

☆出席報告☆

	第3041回	第3038回
例 会 日	4 月 22 日	3 月 25 日
① 会員数 A	29	29
(内出席免除者)	6	6
② 出席義務者数	23	23
③ 出席義務者出席数	14	14
④ 出席免除者出席数	3	3
⑤ メイクアップ数		3
⑥ 出席義務者欠席数	9	9
出席率 %	65.38%	76.92%

出席率 (3041回) ③+④/②+④ 出席率 (3038回) ③+④+⑤/②+④

幹事報告

- ・国際ロータリー第 2660 地区より
「ロータリーの友 5 月号 ガバナー月信 推奨記事と関連記事のご紹介」が届きました。
「2025-26 年度ガバナー公式訪問合同例会 出席者情報提出のお願い (2025.7.8)」が届きました。
「【2025-26 年度】次年度に関する資料」が届きました。
- ・高槻東 RC より
「E メールアドレス並びにホームページ変更のお知らせ」が届きました。
- ・大阪そねざき RC
「創立 30 周年記念誌」が届きました。

掲 示 板

- ・第 11 回定例理事会と第 6 回被選理理事会
日 時：2025 年 5 月 13 日 (火) 本日例会終了後
場 所：ホテルアイボリー1F「かやの間」
- ・第 6 回 IM 第 1 組会長・幹事会
日 時：2025 年 5 月 14 日 (水) 16:00~20:00
場 所：ヒルトンホテル大阪
- ・IM1 組 EXPO フェスタ
日 時：2025 年 5 月 30 日 (土)
場 所：ホテルグランヴィア大阪 20F
第 1 部：14:30 から 第 2 部：17:30 から
- ・次年度のための地区会員増強セミナー
日 時：2025 年 5 月 24 日 (土)
場 所：大阪 YMCA 国際文化センター

😊2025 年 4 月 22 日のニコニコ😊

- ・4 月 17 日の合同出前授業でお世話になりました。
大阪中之島 RC 会長 戸田佳孝様
- ・白寿のお祝いありがとうございました。
名誉会員 木村正治
- ・シーロム RC の皆様ようこそお越しくださいました。
松山、松本各会員

🌸5 月のお祝い🌸

- ・入会記念日
澤木 政光 会員 H.5.5.11
畑田 耕一 会員 H.8.5.7
佐川 正治 会員 H.11.5.11
谷野 桂子 会員 H.21.5.1
眞下 節 会員 H.24.5.1
- ・会員誕生日
武枝 敏之 会員 S.22.5.14
- ・結婚記念日
矢野 昭 会員 H.4.5.4
小川 佳伸 会員 H.5.5.15
矢吹 嘉孝 会員 H.17.5.5
- ・ご夫人誕生日
藤田 充男 会員 真由美夫人 5.7



🌸豊中 RC、大阪中之島 RC、Silom RC 3 クラブ合同例会 in Kansai Expo 🌸



ガンダム

人工心臓



タイパビリオン



豊中 RC、
大阪中之島
RC、
Silom RC
3 クラブ合同
例会

木曽路にて

「大阪大学理学研究科におけるD&Iの取り組みについて」

卓 話 担 当：大阪大学大学院理学研究科 近藤 忠



近年「ダイバーシティ」という用語を耳にすることが多くなりましたが、D&IやDEI（Diversity（多様性）、Equity（公平性）、Inclusion（受容性））といった更に拡張された観点をもって行動することが望まれてきています。大学は様々な人種のるつぼで、本来は多様性がある組織のはずですが、国際標準化の進む現代にあって日本の大学の多くは未だに留学生数、女子学生、女性研究者、外国人教員などの比率はアンバランスが指摘されています。これらの数値が大学評価の指標として用いられるという理由もありますが、各専門分野での国際的な立ち位置からもD&Iを推進する意識は高まってきました。学生時代に多様な視点や感性を養う場としての大学の役割は、私たちの学生時代から遥かに拡張されてきています。とは言え、現存する限られた人材から適正目標となる比率の数値を実現するには各機関間での引き抜き合戦だけでは不足で、時間はかかりますが環境整備や自前でしっかりした人材育成を行うことも重要です。大阪大学理学研究科は入学時の英語受験コース、大学院での英語コース、留学生への経済的支援、20を超える海外大学とのダブルディグリープログラム協定、外国人向けサマースクールの開催、競争的資金による海外機関との交流プログラム実施、また、国内学生向けの海外での科学英語研修制度や、理系に特化した海外での研究者養成のプログラムなど、既に豊富なりソースを有しており、学内でも特に国際交流には力を入れている部局の一つという自負があります。ロータリークラブからの援助も貴重な支援となっています。その一方で、大学における人材育成の到達点としての博士人材の比率や、女子学生の比率に関しては自慢できる状態ではなく、聞けば他大学の理系でも同じ問題点を抱えています。理系を目指す学生の（特に女子学生の）博士課程進学にブレーキをかける要素として、社会や家族がその必要性やメリットを感じていないという状況がありました。現在、国は博士人材をより増やすことを目指していますが、博士も教授も“1日にしてならず”です。大学の教員数が削減されている昨今では、大学教員になるために博士号を取得するというよりは、民間企業や国際社会で活躍することを前提として博士課程で身につけた汎用性のある課題解決能力が見直されている印象です。また、女性にとっても働きやすい環境を実現していこうとする組織は、大阪大学全体としても存在しますが、各部局での働き方の改善に対する理解や環境整備は別個必要です。2023年5月に国立10大学の理学部長会議は女子の割合を改善する共同声明を発表しました。その全員が男性であることを揶揄する報道もありましたが、自らの姿勢を表明することはその一歩でした。社会に目を向けると女性が活躍するドラマは多数あり、ウケも良いようです。2024年の新紙幣発行では、20年ぶりに実在人物としては二人目の女性肖像が使用されました。このような状況で、社会全体の意識変化も、少しずつあるように感じています。ちなみに大阪大学初の女子学生は、理学部数学科の入学生だったそうです。今年は初の女子学生入学から90周年となりました。理学研究科では各種の高大接続事業を通して大学に入ること自体を目的とせず「なりたい自分を目指すための入学」を働きかけるとともに、実際のロールモデルとして大学や民間企業で活躍する女性を集め、体験談や多様な経歴を紹介するサミットも毎年開催しています。更に理学研究科への社会人入学もそれなりに増えているようです。大阪大学の源流となる適塾がそうであったように、老若男女・貧富・国籍を超えて叡智が自ら集いたくなるような大学を今後も目指していければと思っています。